

平成23年 8月 1日

## 23年度役員19名各位

写：事務局・活動局・監査委員20名

逆瀬台小学校区まちづくり協議会  
「ゆずり葉コミュニティ」  
会長 徳高 宗雄  
TEL 71-9074

逆瀬台小学校区まちづくり協議会「ゆずり葉コミュニティ」

# 8月度役員会開催のお知らせ（ご案内）

ご出席下さいますようご案内申し上げます。

日時：平成23年 8月 7日（日） 10：00～12：00  
場所：逆瀬台小学校内 「ゆずり葉コミュニティルーム」

### 《議 題》

「ガソリンスタンド隣接市有地問題」について （60分）

### 報 告

- (1) ゆずり葉だより65号（秋 号10月1日付）発行について （事務局長）  
9月25日（日）10：00～11：00 引渡しします。
- (2) ゆずりは会との打ち合せ会 （会 長）  
6月22日（水）9：30～ 於いて ゆずりは会会議室
  - ① ゆずり葉まつり日程 10月22日（土）11：00～
  - ② 自治会参加情況 ・アイスクリーム販売 逆瀬台自治会  
・コロッケ販売手伝い 阪急青葉台自治会  
・綿菓子販売、紙芝居 光ガ丘自治会
  - ③ 逆瀬台小学校運動会  
・日程 9月23日（金）雨天順延24日（土）  
・保護者、住民出場種目 「ボール運びリレー」
  - ④ ゆずりは会との今後の打ち合せ会  
・第2回 9月28日（水）9：30～  
・第3回 10月19日（水）9：30～
  - ⑤ 運動会・ゆずり葉まつりの案内ピラを配布します。（掲示板等へ）
- (3) 宝塚市・社会福祉協議会からの補助金・助成金受領について （会 長）
- (4) 協賛金納入について （西澤経理委員）

## 議案

(1) アヴェルデ管理組合からの申し出について

(2) 健康福祉ネットワーク会議

① 主題 「高齢者福祉と子育て支援」の事業展開

② 日程 9月5日(月) 10:00~12:00

③ 出席を要望する人

- ・コミュニティ3役
- ・自治会会長 ・管理組合理事長 ・老人クラブ会長 ・民生委員
- ・補導委員 ・小学校PTA ・人権啓発委員 ・NPO法人
- ・スポーツ21役員 ・社会福祉協議会職員

## 参考資料

※ 第1回宝塚市まちづくり協議会代表者交流会

※ 第1回まちづくり円卓会議

※ 第2回宝塚市まちづくり協議会代表者交流会

※ 第1回社会福祉協議会評議員会

※ 第2回社会福祉協議会評議員会

※ 第1回県立宝塚高等学校評議員会

※ 第1回野上児童館評議員会

### 第1回宝塚市まちづくり協議会報告

1. 座長の選出 座長—西山コミュニティ・清水会長  
副座長—山本山手コミュニティ・吉田会長

2. 協働の指針策定

「ワークショップ」の活動において策定していく。

(ワークショップとは)

学識・知識経験者から課題提起が行なわれ、自治会連合会、まちづくり協議会、NPO関係者、民生・児童委員、PTA関係者、市民団体社会福祉協議会、市職員で構成するグループ討議を経て策定していく方策をいう。

### 第1回まちづくり円卓会議報告

1. 基調講演 手塚山大学教授 中川幾郎先生

(1) 地方自治体の古くて新しい課題「地域社会づくり」

① 政令都市における地域づくり

区役所の強化、地域社会への分権化がすすんでいる。

② 地域社会づくり政策の重要性が全面にでようとしている。

③ 「目覚めた市民」が創る地域社会であるべき。

宝塚市はその見本。行動力・学習力を持つ市民であるべき。

- ④ 災害時の要援護者救済を考えるべき。  
神戸市において、コミュニティからはみ出た男性高齢者の死亡が続出した。
- (2) 地域社会のこれまでとこれから
- ① 地域共同社会は  
戦後・高度成長期→行政の縦割り構造がもたらした地域縦割り組織の増加  
安定成長期 →高齢化と福祉部門の強化  
現在 →超高齢化・少子化と組織加入率の低下  
団塊世代をどうするか。
- ② 地域社会の課題  
分野別の課題をみつける。組織分立の克服と総合性の回復。人材確保。世代継承と持続可能性の確立。安全・安心課題への早急な取り組み。人間関係のメンテナンスをすすめる。自治会→できる仕事の見通しを持ち整理する必要がある。課題別代表を決め、全世代をつなぐ工夫を。
- ③ 参画と協働のまちづくりの主体となる。
- ・構想、計画づくり
  - ・将来ビジョン策定と課題の析出
  - ・生活の全体性に立脚して考える
  - ・事業の仕分け（地域でないといけないこと、行政でないといけないこと）をする
  - ・資源の把握、配分を考える
  - ・実行の主体となる

- \*市役所の下請け（ピラ配り、お金集め等）であってはならない
- \*まとまりを求めるには、会長が各々別人などと人材の無駄使いをしない。組織の減退・分立化に陥る。
- \*自然な組織化が強制と勘違いされないように配慮する
- \*ただし、長の立場にたつと役職が増加し、それは組織の崩壊につながる。そして、それは後継者不足にもつながる。
- (3) 「大・中都市自治会、まちづくり協議会」の意義とこれから
- ・「自治会」「まちづくり協議会」はホンモノの「市民」づくり学校である
  - ・寝民、居留民と「市民」は違う

- \*ヨーロッパ三つの誓い（中世ヨーロッパ市城に住む時）
- ① 収入の10%を提供する。
  - ② 災害、外敵に向かって立ち上がる。
  - ③ 経済的に立ち上がる。
- \*個人情報秘守問題の解決方向は個人からり名乗りを期待する（個人主義の行きすぎは総合性の喪失と裏腹）
- \*将来、自治会を条例にもとづく「公共法人」とするのも一案

- ・古典的な「市民」の定義から市民の分担とは？
    - (1) 都市経営コストの分担・納税
    - (2) 都市自治への日常的貢献
    - (3) 都市の危機に際しての自衛参画（都市を地域と置き換えてみる）
  - ・NPOなどの連带的組織や人材との多様な接点を探る
- (4) 自治会とまちづくり協議会の大切な関係
- ・郡部では自治会=まちづくり協議会
  - ・都市部では自治会とまちづくり協議会が並列一緒になるべし

- ・自治会はまちづくり協議会構成団体の必要条件
- ・自治会は地域代表性を最も保証している。
- ・(1) 課題別代表性 (2) 性別世代別性 (3) 地域代表性をの原則を大切にする。
- (5) 「まちづくり」の三原則を活性化させる
  - (1) 人的・組織的資源（ヒューマンウェア）＝社会的関係資本
  - (2) 技術的・制度的・倫理的資源（ソフトウェア）＝社会的共通資本
  - (3) 固定的・物的・器材的資本（ハードウェア）＝社会的関係資本
- (6) 「住民自治」とは何か
  - ① 住民による地域社会の自治（自治会など）ヨコ
  - ② 住民による社会課題の自己解決（NPOなど）タテ
  - ③ 住民による団体自治（議会・行政）の統制（解職請求、条例制定請求、監査請求など）ナナメ
- (7) 地域社会・住民自治協議会などが意識すべき「まちづくり」の順序
  - ① 安全・安心のまちづくり（防犯・防災）
  - ② 人に優しいまちづくり（ユニバーサル・デザイン）
  - ③ 活力あるまちづくり（コミュニケーション・経済・産業）
  - ④ 学び、美しさ、モラルの高いまちづくり（生涯学習、美観、倫理性）
  - ⑤ どこにもない、個性的なまちづくり（アイデンティティ、オンリーワン）
- (8) 協働型地域社会の元気・魅力アップ方策
  - ① 地域社会でないといけないこと。行政でないといけないことの仕分けをする
  - ② まちの「縁側」「たまり場」づくりをしましょう
  - ③ 課題別、地域別から「世代別事業」を開拓しましょう  
\* 地蔵盆、女正月はその典型
  - ④ まちの「見守りマップ」づくりに取り組みましょう
  - ⑤ 地域に住む役所の職員を会員、役員に
  - ⑥ 団塊世代には、もう今から働きかける

\* 小・中・高校の校長、教頭や警察官をコミュニティの会に呼ぶことも必要

\* 「コミュニティビジネス」という本が出版される  
・学童係 ・保育係 ・食の宅配

## 2. 意見交流

- (1) 自治会・まちづくり協議会とも独断・専行や独裁であってはいけない。決議機関をたいせつにすべき。
- (2) 組織の活性化に向けて、工夫し知恵をだそう。
- (3) 回りの人を大切にしよう。
- (4) 少々のことでは苦勞を厭わないでがんばろう。

## 第2回宝塚市まちづくり協議会代表者交流会報告

### 1. 協働の指針策定ワークショップについて

#### (1) 目的

市民主体のまちづくりの実現にむけた協働の指針づくりの骨格案を多様な市民団体との協働により作成する。

#### (2) 実施時期

平成23年8月下旬から5回程度

(3) 構成

知識経験者2人 自治会連合会7人 まちづくり協議会7人  
NPO関係者4人 民生児童委員4人 PTA関係者4人  
社会福祉協議会2人 市民団体4人 庁内職員検討会6人 計40人

(4) 内容

(1回目)

知識経験者による基調講演並びにワークショップの進行計画やルールを共通理解し、10人×4グループ編成とし、今後の議論を深めるためグループ分けをこのときに行なう。

(2回目)

前回での論点・課題の整理と情報共有  
協働にかかわる地域課題、行政課題、NPO等の市民団体での課題を認識する。

指針の内容抽出に向けた意見整理

(3・4回目)

前回での論点・課題の整理と情報共有、指針の内容などを抽出、指針の骨格案作成

(5回目)

指針骨格案の策定(ワークショップ案の確定)

2. 第5次総合計画の推進と新しい公共フォーラムについて  
公開討論

平成23年 7月31日(日) 市立東公民館にて開催

平成23年 8月 7日(日) 市立西公民館にて開催

第1回社会福祉協議会評議員会報告

1. 宝塚市社会福祉協議会の歴史

昭和29年	7月 1日	宝塚市社会福祉協議会発足
昭和43年	2月28日	社会福祉法人として厚生省より認可を受ける
昭和60年	6月12日	宝塚市総合福祉センター管理を市より受託
平成 1年	4月 1日	ホームヘルプサービス市受託開始 老人デイサービス事業開始
平成 7年	1月17日	阪神・淡路大震災以降 被災者支援と 復興活動を開始
平成12年	4月 1日	介護保険事業開始
平成17年	3月23日	地域福祉推進計画策定

2. 宝塚市社会福祉協議会の主な事業

1. 総務企画部

(1) 経営財務課

\* 経営管理に関する業務  
\* 総合福祉センターの管理運営

(2) 企画人事課

\* 組織運営に関する業務  
\* 次期地域福祉推進計画の策定、現行計画の推進  
\* 人事労務管理に関する事業  
\* 善意銀行  
\* 宝塚市遺族会、傷痍軍人会に関すること  
\* 車両関係の管理

2. 地域福祉部

(1) 地域福祉推進課

\* 地域福祉活動拠点整備事業  
\* 地域福祉活動推進事業  
\* 見守り生活支援  
\* 広報・啓発事業  
\* 社協会員募集事業、共同募金運動

- \* ボランティア活動・NPO活動の推進
  - (2) 自立生活支援課
    - \* あんしんサポートセンター事業
    - \* 当事者の組織化、相談、地域生活移行支援事業
    - \* 総合相談支援、介護予防マネジメント、包括的・継続的マネジメント
  - (3) フレミラ宝塚課
    - \* 高齢者の社会貢献と元気老人への支援
    - \* 地域での子育て支援、児童健全育成に関する事業
3. 在宅福祉部
- (1) 障害者支援センター課
    - \* 身体障害支援センター事業
  - (2) 居宅介護支援課
    - \* 訪問介護
    - \* 訪問看護
    - \* 民家型小規模通所介護
  - (3) 通所介護課
    - \* 通所介護事業

第2回社会福祉協議会評議員会報告

1. 役員を選出

理事 稲野 廣 氏 学識経験者  
 理事 中 政芳 氏 老人クラブ連合会

退任理事

熊澤 三徳 氏  
 越智 昭郎 氏

2. 東日本大震災被災地支援

全4回 支援隊派遣 延べ 106名  
 派遣のための補正予算

収入	
宝塚市補助金	6,136,000円
参加費	970,000円
合計	7,106,000円
支出	
業務委託費	6,355,000円
損害保険料	151,000円
消耗品費	600,000円
合計	7,106,000円

第1回県立宝塚高等学校評議員会報告

1. 県立宝塚高等学校の教育方針

(1) 校訓

「剛健中正」…身も心も健やかであれ！  
 「誠意正心」…正しい心で何事にも一生懸命であれ！  
 「明朗闊達」…明るく活発にリードをとれ！

(2) 教育方針

…永遠に立脚して刹那に努力しよう…  
 「普遍的真理にたつて、絶えず努力を続けよう」

- ① 真理を愛し、学問の道にいそしむ人間をつくる。
- ② 明るい学園と、よりよき国家と社会をきざく人間をつくる。
- ③ よりよき人生をきり拓くためのたくましさを持った人間をつくる。

## 2. 評議員会に参加しての感想

『先生方のご努力のもと先生方と生徒とが信頼のもとで強く結びついて  
いる。それは、生活実態調査及び学習調査をされて、生徒達の真摯な  
回答を見て受けた印象である。』

## 第1回野上児童館評議員会報告

### 1. 児童館業務

- ① 図書貸し出し業務
- ② 小学生グループ活動支援業務
- ③ 行事（スポーツ大会、ゲーム大会、季節行事）支援業務
- ④ 行事などへのボランティア活動の推進
- ⑤ 子育て支援業務
- ⑥ 高齢者・障害者との交流業務
- ⑦ 児童館まつり、児童福祉週間行事、キャンプなどの行事実施業務

### 2. 資源マップづくり

（逆瀬台小学校区）

- ① ミニ児童館《親子自由遊び、昼食持参可、車可》
- ② 子育てグループ「かぼちゃ」《親子自由遊び、遠足、お弁当可、車可